

2009/02/01

鳥との出会い／ベニヒワ

5年前のことになります。

「菊水山にベニヒワが来てるわよ」

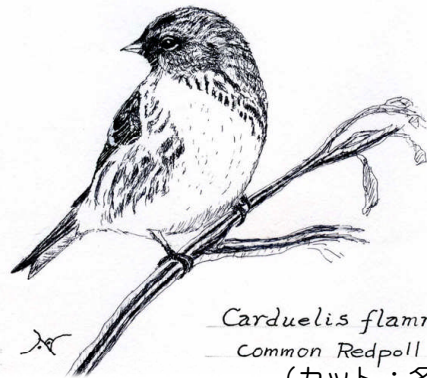
「ウソッ」

「ホントよ。急いでいらっしゃい。早く」。

夢のようなコールがありました。グズの私もそのときばかりは超特急でとんで行きました。

思えば、野鳥といえば、ヒヨドリ、メジロくらいしか知らない頃、誘われて京都の深泥が池に遊びました。お弁当を食べていると、かわいい小鳥が自分の身体の2倍位の巣材をくわえて運んでゆきました。その可憐な美しい姿、素敵な羽の色に見とれました。そのエナガのことがきっかけで野鳥の会にも入れていただき、よき指導者の先生方に導かれ、多くの親切な友達に恵まれて、次々と多くのすばらしい鳥たちを見せていただきました。一々数え上げるわけにはいきませんが、その中で特筆すべきは「ベニヒワ」なのです。冬鳥として黄色いマヒワの群れがやって来るのも楽しみですが、ベニヒワはなぜ来ないのかしら、どこへ行けば見られるのだろう。「北海道の千歳空港に行くで見られるよ」とアドバイスをいただいたり、「下北半島の端の××村、ここへ行けば絶対見られる」とか。でも、私一人ではいけないし、そんなツアーも見当たらない。あきらめるより仕方なく・・・でした。

菊水山の指定の場所へ、急な坂を近道して、リュックを持ちに下りて来ていただき、少しでも早く、飛んで行ってしまわないうちに……。幸いなことに、ベニヒワの群れがかなりの数で現れ、ヤシャブシの種子をまだ食べていました。私はみなさまに「アリガトウ」の言葉も忘れて見とれました。よくぞ、この六甲山系の、そのまた地元の菊水山に来てくれました、と心の中で叫びました。頭頂の紅が日に映えて、思ったより地味な身体を引き立てていました。胸の赤く染まった♂の姿はなかったけれど、私は大満足でした。とうとうベニヒワに会えた!!その喜びは今も鮮明で忘れることはありません。その後ベニヒワがやって来たという声を聞きません。とにかく、野鳥の会のこと、その良き指導者の方々、良き友達に恵まれたことへの感謝を深くするばかりです。



Carduelis flammea ♀
Common Redpoll

(カット：名越正男)

鳥と出会った人：谷口 喜保